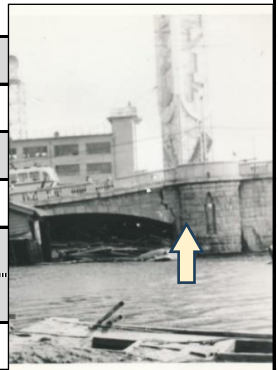


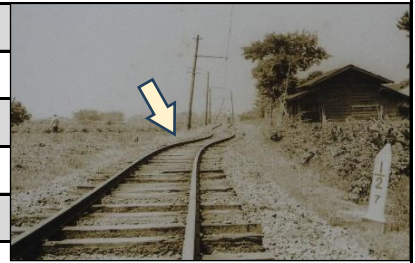
新潟地震関連の主な出来事

(昭和39年6月から40年1月まで)

月	日	内 容
6	16	13時1分に地震が発生する。13時30分、新潟市長を本部長とする新潟市災害対策本部が設置される。 14時33分、新潟気象台正面で信濃川を逆流する津波の高さ181cmを観測する(この地点での最高)。 電気・通信は途絶し、給水はストップする。昭和石油新潟製油所のタンクが爆発する。 昭和大桥・松浜橋が落橋し、国鉄新潟支社管内の列車は全線停止となる。
	17	新潟市内の車両確保のため、広域交通規制が実施される。 田中角栄蔵相が来県し、首相の激励の言葉を伝える。
	18	新潟県地震対策本部が仮住宅200戸とプレハブ住宅2,300戸を建設することを発表する。 新潟港は船舶の入港制限を解除する。
	19	緊急補修をした萬代橋の渋滞緩和のため、西新潟から東新潟への一方通行が実施される。 震災応急措置として、笹口地内に新潟駅仮ホームが設置される。 新潟市議会(臨時会)で災害応急対策費などの補正予算が可決される。
	20	自衛隊員6,000人を投入し、浸水を防ぐための信濃川両岸の締め切り作業が始まる。
	21	池田勇人首相が来県し、被災状況を視察する。
	22	一部を除き、市内小中学校の授業が再開する。
	24	新潟駅ホームへ震災後初めての列車が入る。
	25	新潟県地震対策本部が被害状況をまとめ、被災者総数249,800人と発表する。
	27	新潟空港が復旧し、新潟ー東京間1往復、新潟ー佐渡間4往復の運航が再開される。
7	1	昭和石油の火災が鎮火する。 ※6月30日とする書籍もあり 新潟市は、学校水泳を全面禁止とする。
	2	八千代橋の応急復旧が完了し、開通する。萬代橋の一方通行が解除される。
	4	新潟県は地震の最終被災状況をまとめ、被災家屋が86,000棟と発表する。
	11	アメリカ・ガルベストン市の特派大使が来県し、被災状況を視察する。
	12	不通だった越後線の新潟ー白山間が開通する。 ※白山ー関屋間は7日に開通済み
	16	新潟市が、新潟地震の被害者に対する昭和39年度分市税の減税に関する条例を制定する。
	18	県営川岸町アパートの石山地区移転が決まる。 インド政府からの支援物資、紅茶400箱が到着する。 ※以降、海外から見舞いの金品が多数贈られる。
8	5	新潟市議会新潟地震災害復興特別委員会は、県選出の国会議員との懇談や大幅な予算獲得などを要請する。
	13	国が新潟県を激甚災害法と天災融資特別地域に指定する。
	22	新潟県の震災復興計画案がまとまり、信濃川沿いに緑地帯を設けることが盛り込まれる。
9	4	新潟市震災復興会議が「新潟市震災復興計画」の答申を市長に行う。
	12	海上保安庁の水路調査で、粟島の断層と本土沿岸の沈下が確認される。
10	12	被害が甚大だった万代島の万代貨物駅の廃止が決まる。
	25	橋桁が落下した昭和大桥の仮復旧工事が完了する。
11	19	新潟地震災害復興委員会が「新潟地震災害復興計画」の答申を知事に行う。
	27	柏崎を震源地とする地震が発生する(新潟・相川で震度4)。
	30	山の下地区の各戸給水工事が完了し、新潟市全域に給水されるようになる。
12	19	松浜橋が完成する。
	26	新潟駅の震災復旧工事が完了し、復興記念式が行われる。
1	1	新潟交通電鉄の東関屋ー県庁(現市役所本館の斜め向かい側)間が約200日ぶりに開通する。
	28	新潟市長らが、新潟地震救援に対する答礼も兼ねてガルベストン市を訪問、姉妹都市宣言が調印される。



ひび割れる萬代橋
【広報課旧蔵】



ゆがむ線路(新潟交通電鉄黒埼地域)
【西区役所黒埼出張所旧蔵】

※『新潟県年鑑』『新潟地震誌』『新潟市議会小史』『新潟市政進展史』より作成